

## I. みことばは讃美歌詞の源泉

- A. 讃美歌の主題がみことばの教えに沿ったものであるかどうかを確認しましょう。証しや個人的な経験を歌うときでも、みことばの教えから逸れていないかどうか確かめましょう。
- B. 自分の作品が、どのみことばからインスピレーションを受けているのかを確認して、そのみことばを何度も読み返しましょう。
  1. みことばを深く理解するために、祈りつつ、注解書、聖書事典、牧師や兄弟姉妹の力を借りることも有益です。
  2. みことばは、讃美歌詞の表現とボキャブラリー（語彙）の源泉でもあります。みことばを深く広く読むことで、讃美歌詞の表現もより豊かで良いものに変えられていきます。

## II. 意味の流れ

- A. 詩文でも散文でも、あらゆる文章には意味の流れがあります。讃美歌も同じです。
  1. 複数の主題を並べる時は、聖書的、神学的な流れを考慮してください。  
例：父／子／聖霊、信仰／希望／愛、新生→聖化→栄化、十字架→復活→昇天、等々
  2. 物語性のある歌詞の場合は、起承転結を意識してみましょう。

## III. 日本語の表現

- A. 讃美歌詞には、字数を揃えたり、ことばのイントネーションを曲と合わせたりと、多くの制約があります。それらの制約の中で良い表現をするために使える技法があります。「主語・目的語・助詞の省略」「同じ品詞の列挙」「体言止め」「倒置法」などです。ただし、どれも多用すると日本語として不自然になったり、意味が通じにくくなります。
  1. 歌詞を読み返して、どんな技法を使ったかを確認、次のことをチェックしましょう。
    - ・いろいろな技法を使いすぎていませんか。
    - ・不自然な言い回しになっていませんか。
    - ・自然な日本語として意味は通っていますか。
- B. ことばや表現が上手く収まらない時に
  1. 類語辞典（ネットの類語検索）を使って、同じような意味のことばを探しましょう。
  2. 視点を変えてみましょう。その際、意味の重なりと違いに注意してください。  
例：歌う→歌声となる　外に出る→扉を開ける　水を飲む→潤される
  3. 一箇所でもことばや表現を変えたら、その前後と、全体の流れを確認してください。

## IV. 歌いやすさ

- A. 礼拝では、音楽の苦手な人が初見で讃美歌を歌うことがあります。ですから、讃美歌には訓練された歌手やバンド、合唱団が歌う曲よりも、歌いやすさへの配慮が求められます。
- B. 各節でことばの数を揃えてください。各節の句読点の位置もある程度揃えましょう。
- C. ことばを多く詰め込みすぎると、歌いながら意味を考えることや、味わうことが難しくなります。ことばの多さ、休符やブレスの位置も考えながら詞を作りましょう。
- D. 自分で何度も歌いながら、歌いやすさと、意味が十分伝わることを確かめましょう。